

増子さん 国交大臣表彰

サホロスキー場 リフトの安全徹底

【新得】加森觀光サホロ事業部索道課長の増子幸一さん（56）＝富良野市在住＝が、第25回「鉄道の日」鉄道関係功労者大臣表彰を受賞した。サホロスキー場などで長年、リフトの安全運行業務に努めたことが評価された。「大変名誉なこと」と喜んでいる。

「後継者育成にも力」

増子さんは1962年、芦別市生まれ。アルペンスキー競技の経験者で、芦別工業高（現芦別高）を卒業

後、「スキーに関わる仕事がしたい」と富良野スキー場を運営する国土計画（現プリンスホテル）に入社。以来37年間、索道（空中ケーブル）に関する現場業務

一筋で実績を積んできた。2009年に転職した加森觀光のサホロスキー場では、一昨年にオープンした佐幌岳（1060㍍）北斜面コースの開発プロジェクトリーダーに。フード付きのクワッドリフト「サホロエキスプレス」の設計案などを手掛けた。

トリーで、一方で付きのクワッドリフト「サホロエキスプレス」の設計案などを手掛けた。道厅や森林管理署と協議

ぶ増子さん

今年度は全国で98人と4団体が受賞。道内では、JR北海道富良野線西神楽駅の環境美化に貢献した「旭川市西神楽地区中央市民委員会」も受賞している。全国でスキー場関係者は増子さんのみ。（小寺泰介）



を重ね、自然環境に配慮したコースづくりに腐心。「リフトの支柱の設置場所一つにも気を使つた。順調に進まなかつた分、新コースが完成したときの感動は何倍にも大きくなつた」と振り返る。

サホロスキー場のリフト整備は、例年5月からスタート。「私たちの仕事は冬がメインと思われがちだが実は夏が本番」といい、整備を怠らず、徹底することで初めて円滑な運行が実現すると強調する。

現在まで無事故を続けていることは大きな誇りで、スキー場のパトロール隊長やサホロリゾート施設全体の電気主任技術者も兼務している。

増子さんは10月15日、東京都内の国土交通省で開かれた表彰式に出席。「今後は後継者の育成にも力を入れたい」と意欲を新たにしている。